奈良国立文化財研究所概要

1983

目　　次

沿　革　付年表…… 2

組　織…… 3

機　構…… 3

定　員…… 3

役　職　職　員…… 4

予　算…… 4

歳　出　予　算…… 4

科学研究費補助金…… 4

施　設…… 5

土地及び建物…… 5

事　業…… 7

建造物研究室…… 7

歴史研究室…… 7

平城宮跡発掘調査部…… 8

飛鳥藤原宮跡発掘調査部…… 9

飛鳥資料館…… 10

埋蔵文化財センター…… 11

普及活動…… 12

公開講演会…… 12

現地説明会…… 12

刊　行　物…… 12

蔵書及び資料…… 14

沿　革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年４月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の４室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年４月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年４月には飛鳥資料館、昭和49年４月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

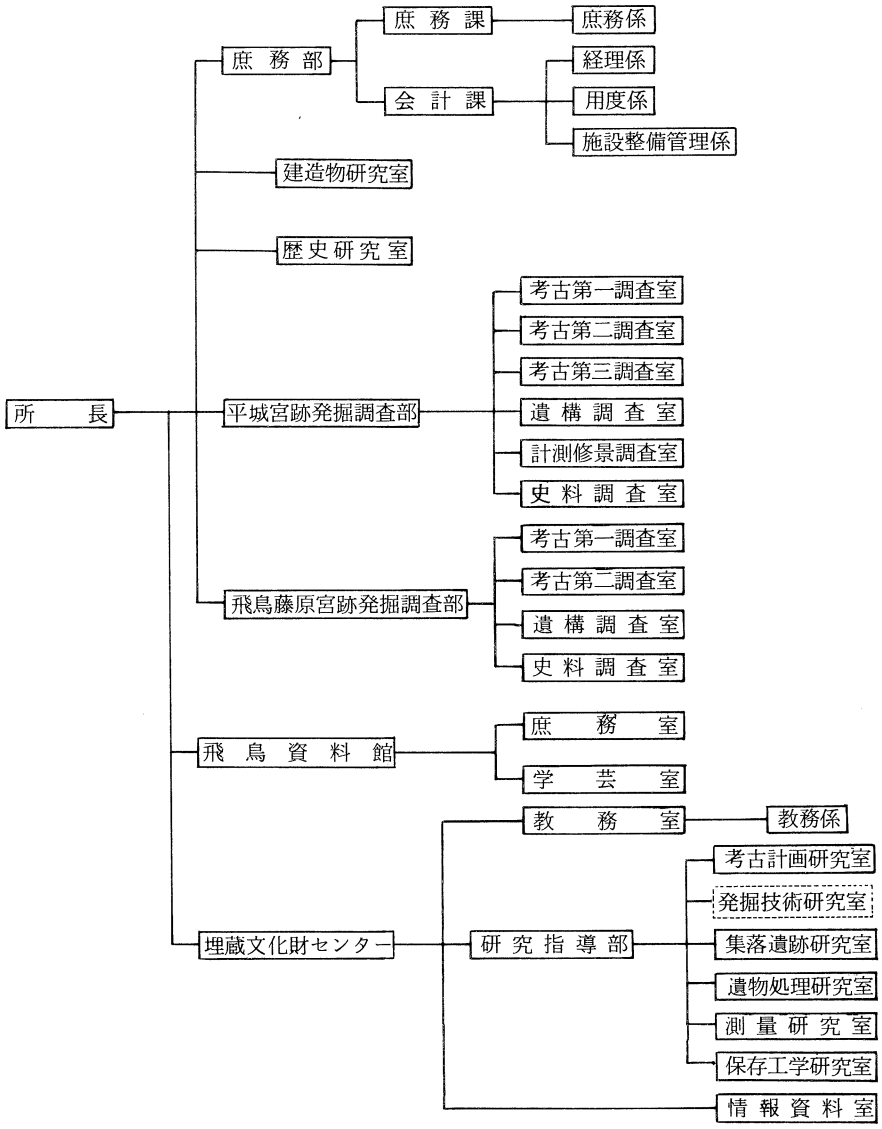
年　表

昭和	26. 10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
	27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
	29. 7. 1	奈良国立文化財研究所と改称
	35. 10. 15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
	36. 9. 16	庶務室は庶務課となる。
	38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
	39. 4. 1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
	40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
	43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
	45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
	45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
	48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
	49. 4. 11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
	50. 3. 15	飛鳥資料館開館。
	50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
	51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
	52. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
	53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
	53. 10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
	55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換
	55. 4. 26	庁舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
	58. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設（予定）

組　織

昭和58年 4 月 1 日現在

機　構



定　員

区　分	指定職	行政職㈠	行政職㈡	研究職	計
人　員	1	22	5	67	95

役職職員

所長	坪井清足		
庶務部	部長 大村幸男	庶務課長	笹山保美
		会計課長	松本保之
建造物研究室		室長	吉田靖
歴史研究室		室長	鬼頭清明
平城宮跡発掘調査部	部長 岡田英男	考古第一調査室長	工楽善通
		考古第二調査室長	森郁夫
		考古第三調査室長	山本忠尚
		遺構調査室長	宮本長二郎
		計測修景調査室長	田中哲雄
		史料調査室長事務取扱	岡田英男
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	部長 狩野久	考古第一調査室長	佐藤興治
		考古第二調査室長	木下正史
		遺構調査室長	細見啓三
		史料調査室長	加藤優
飛鳥資料館	館長事務取扱 坪井清足	庶務室長	中尾重徳
		学芸室長	猪熊兼勝
埋蔵文化財センター	センター長 田中琢		
		教務室長	若井明
		情報資料室長	岩本次郎
研究指導部	部長 佐原真	考古計画研究室長	松沢亜生
		発掘技術研究室長	
		集落遺跡研究室長	町田章
		遺物処理研究室長	沢田正昭
		測量研究室長	木全敬蔵
		保存工学研究室長	安原啓示

予算

歳出予算

（単位　千円）

区分	56年度	57年度	58年度（当初）
人件費	417,384	441,202	453,378
運営費	605,203	617,230	629,276
施設費	305,877	310,531	330,654
臨時的経費（庁舎統合移転）	29,600	0	0
計	1,358,064	1,368,963	1,413,308

科学研究費補助金

（　）書きは件数（単位　千円）

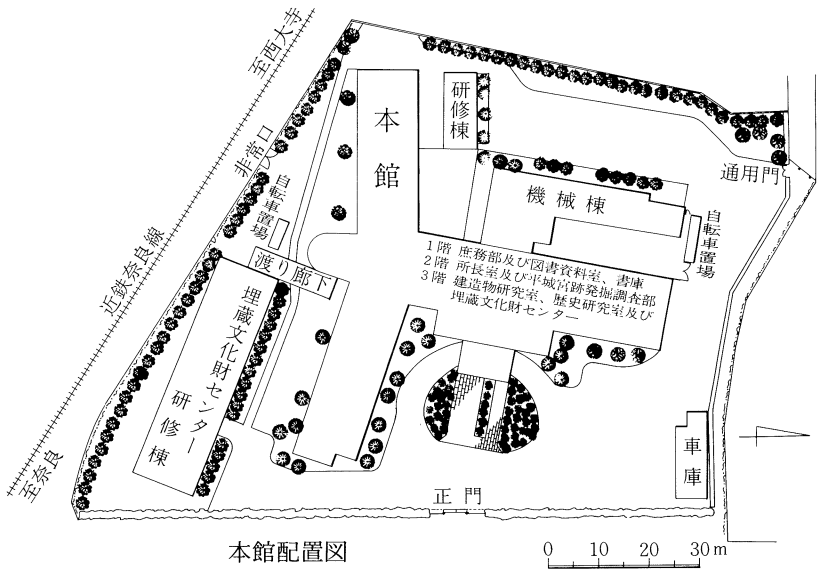
区分	55年度	56年度	57年度
特定研究 (1)	(3) 13,000	(1) 12,000	(1) 1-9,500
総合研究 (A)			(1) 3,300
一般研究 (A)	(1) 6,000	(1) 800	
(B)		(2) 5,700	(4) 10,300
(C)	(4) 2,300	(4) 3,760	(2) 2,400
(D)	(2) 920		
奨励研究 (A)	(4) 3,100	(7) 5,460	(4) 3,300
試験研究 (1)			(1) 8,800
試験研究 (2)		(1) 4,930	(1) 2,000
計	(14) 25,320	(16) 32,600	(14) 49,600

施　設

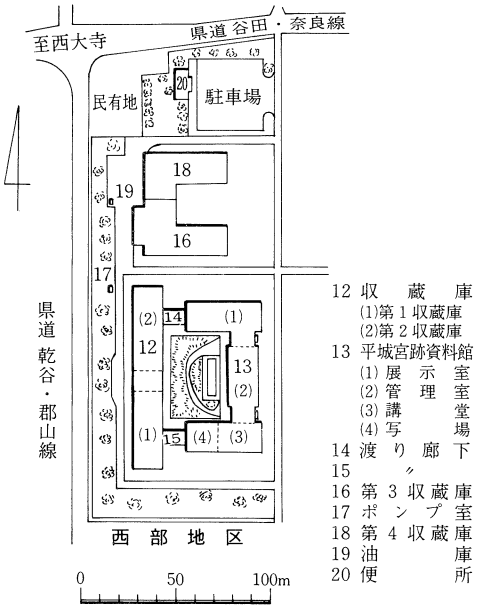
昭和58年４月１日現在

土地及び建物

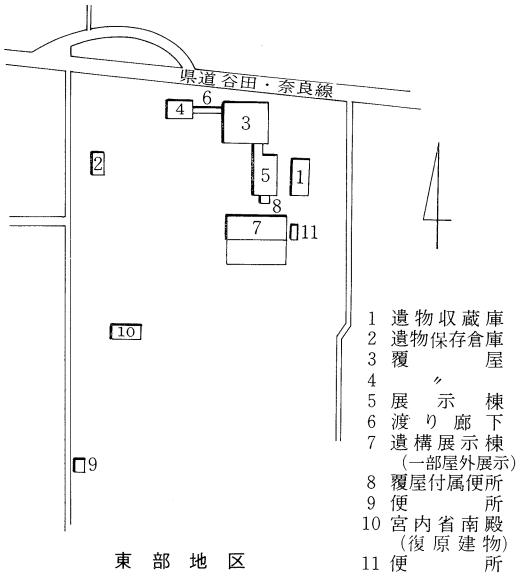
名　称	土地面積	建物面積		備　考
		建面積	延面積	
本　館	8,860 ㎡	2.792 ㎡	6,793 ㎡	
平城宮跡	1,026,380	7,811	10,632	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館及び覆屋
藤原宮跡	264,331			土地 文部省所管 256,610 ㎡ 民有地借上 6,721 ㎡
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家住宅	298	190	213	民有地借上　重要文化財
宿　舎	1,654	334	378	
飛鳥資料館	1,343	225	225	
郡　山	311	109	153	土地 231 ㎡ 大蔵省所管を含む
合　計	1,309,755	12,592	20,698	



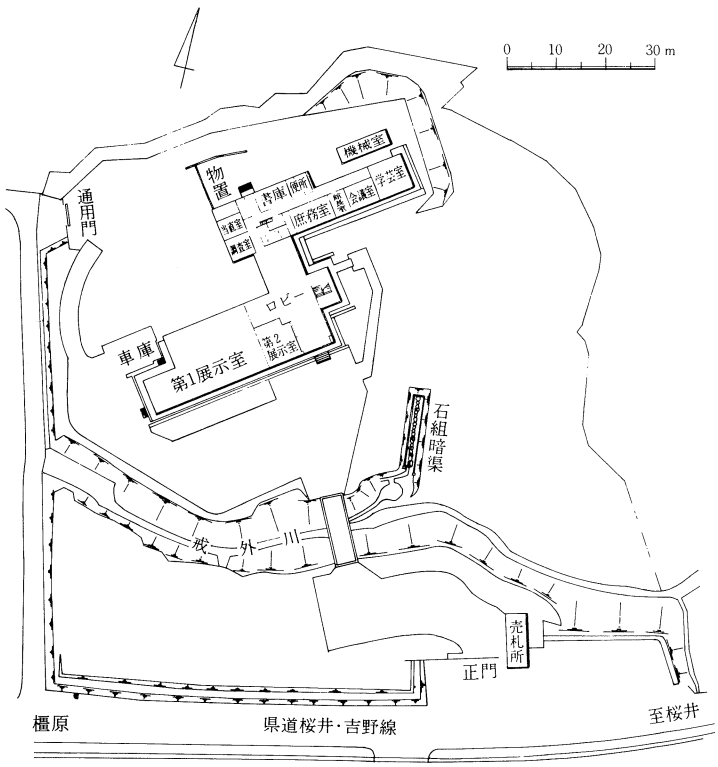
本館配置図



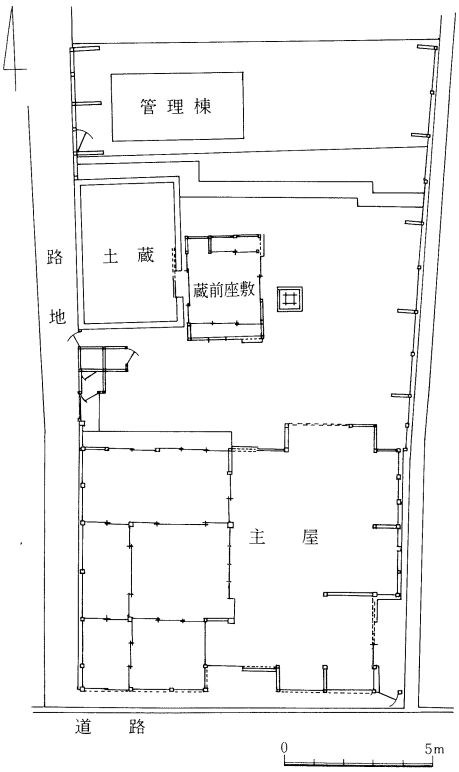
平城宮跡資料館配置図



平城宮跡覆屋配置図



飛鳥資料館配置図

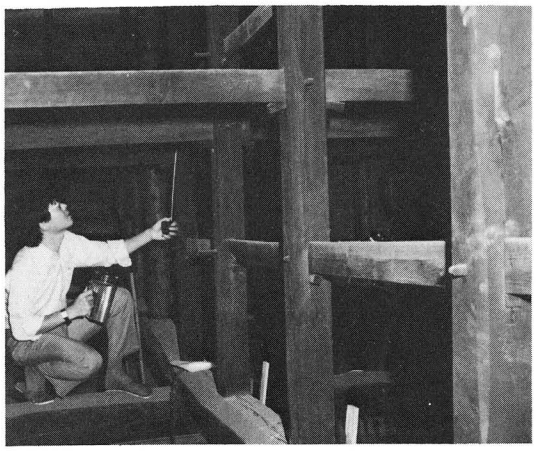


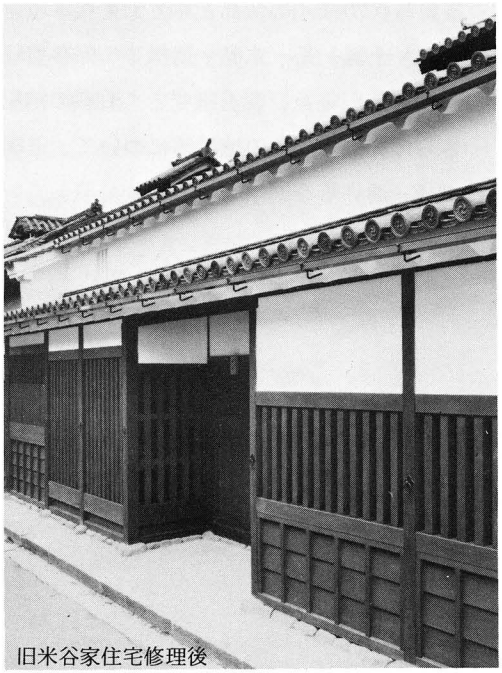
旧米谷家住宅配置図

事　業

建造物研究室

建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。





旧米谷家住宅修理後

建　造　物　の　調　査

歴史研究室

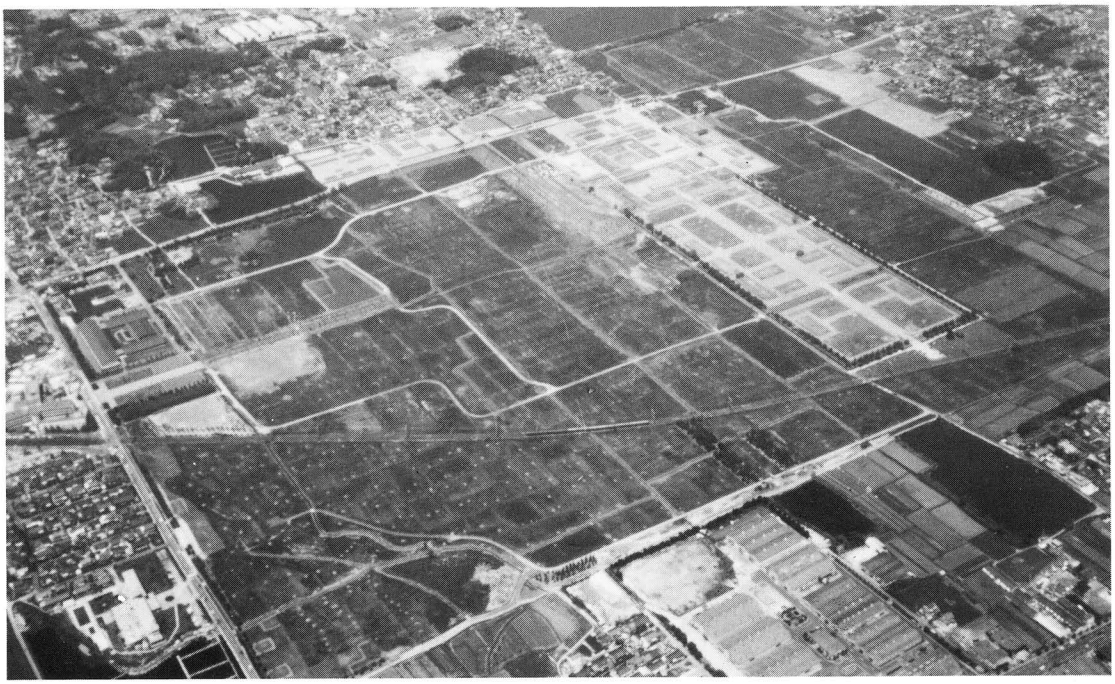
考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。

古　文　書　等　の　調　査

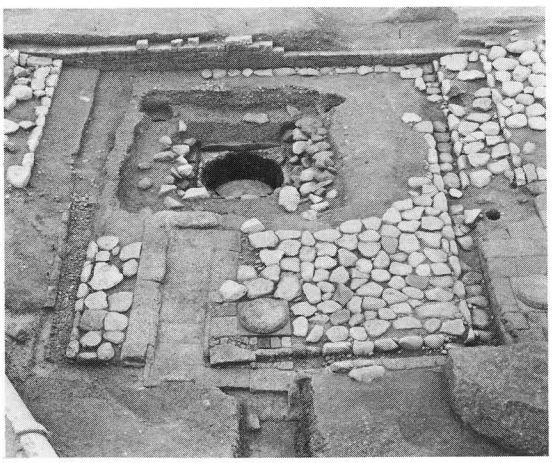
平城宮跡発掘調査部

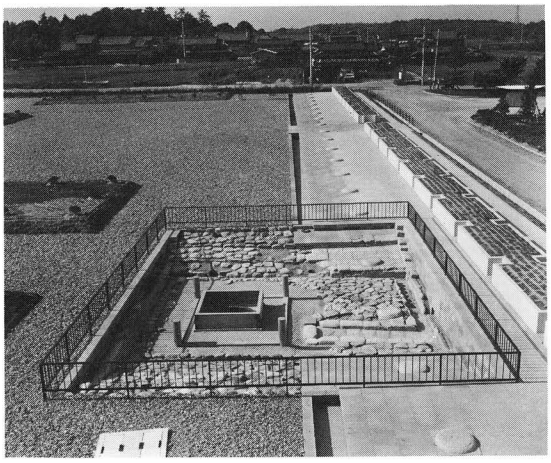
奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示して一般に公開している。



平城宮跡全景



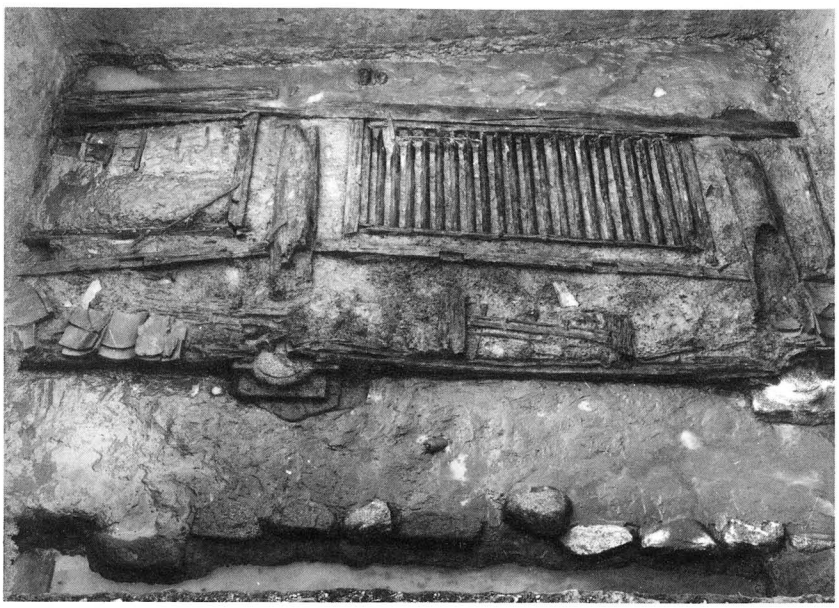


発掘された奈良時代の石敷井戸とその復元展示

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

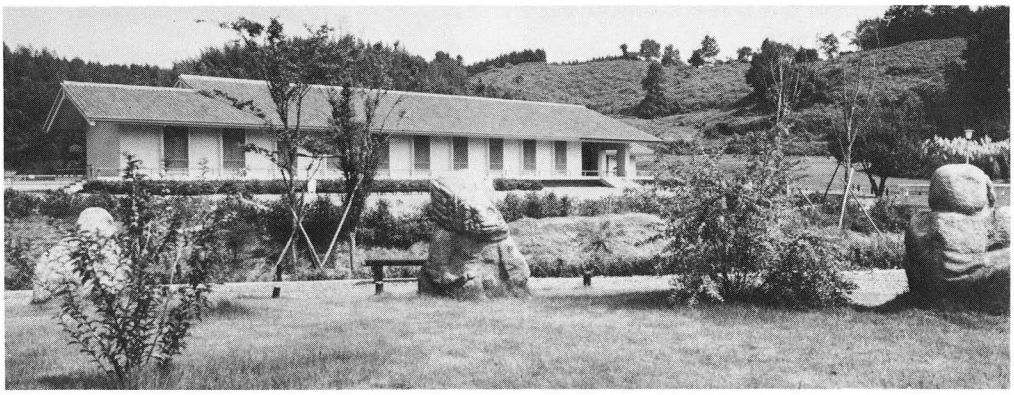
藤原宮跡大極殿周辺



山田寺東回廊建物（東から）

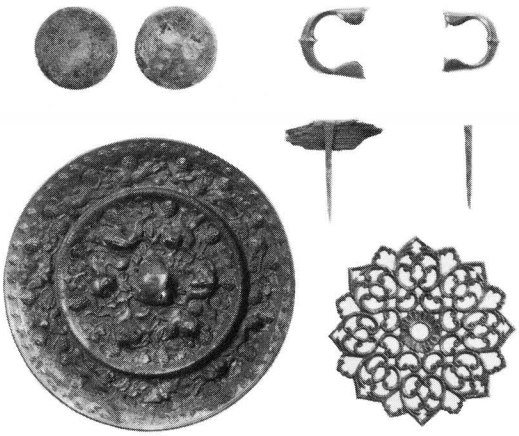
飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景

石人像（重要文化財）
飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

単位人

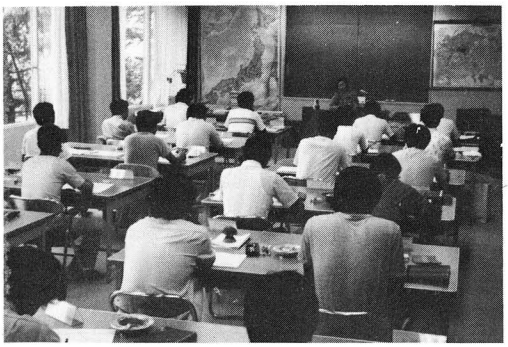
区分		年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
有料観覧	普通観覧	一般	46,175	42,107	48,222
		高・大学生	18,859	16,248	15,786
		小・中学生	13,145	12,003	13,675
	団体観覧	一般	27,265	22,273	27,483
		高・大学生	31,767	31,704	31,429
		小・中学生	47,557	46,513	60,658
	計		184,768	170,848	197,253
無料観覧			8,290	8,709	10,826
合計			193,058	179,557	208,079

埋蔵文化財センター

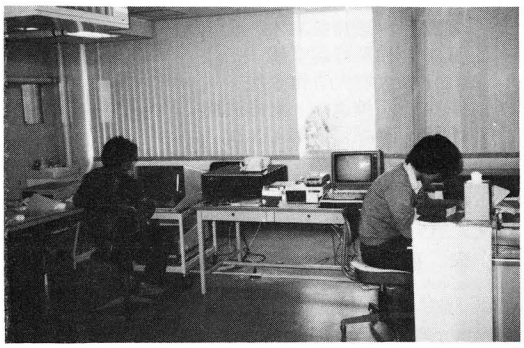
埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和57年度までの受講者累計は1,370名である。

区　分	課　程	区　分	課　程
一般研修	一般課程	専門研修	保存科学応用課程
専門研修	集落遺跡調査課程	〃	墳墓調査課程
〃	土器調査課程	〃	遺跡保存整備課程
〃	遺跡測量課程	特別研修	埋蔵文化財基礎課程
〃	環境考古課程	〃	近畿地方出土木器集成研究
〃	保存科学基礎課程	〃	写真測量技術課程

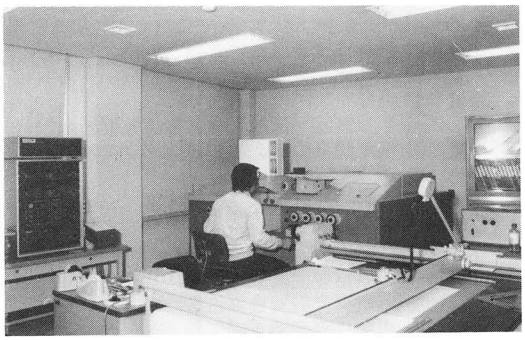


研　修　風　景



情報処理機器　埋蔵文化財関係資料の情報処理を行う。

P.E.G含浸装置　ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量図化機　ステレオメトログラフE型を使用して実測図を作成する。

普及活動

（1）公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第49回 （56.5.30）	近世大和における町人地の形成課程 いわゆる忍冬唐草紋について―法隆寺式軒平瓦の紋様を中心として―	第51回 （57.5.29）	藤原宮その後 ―廃都後の土地再開発について― 飛鳥石神遺跡の発掘調査
第50回 （56.11.7）	古代造瓦技術に関する一考察 古代の建造物修造技法	第52回 （57.11.20）	伝統的町並の再生 奈良三彩の造形意匠について

（2）現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会年月日	発掘調査場所	説明会年月日	発掘調査場所
56. 6. 6	平城宮跡第129次	57. 3.20	平城宮跡第136次
8. 8	藤原宮跡第34次	6.19	石神遺跡
8.22	平城宮跡第132次	6.26	平城宮跡第139次
9.26	桧隈寺講堂跡	10.30	山田寺跡
10.17	大官大寺第8次	11.27	桧隈寺跡
11.14	石神遺跡・水落遺跡	12.18	平城宮跡第140次
11.28	平城宮跡第133次	58. 3. 5	平城宮跡第146次
57. 2.20	水落遺跡		

（3）刊行物

イ、学報

年度	名称	年度	名称
1954	第1冊 仏師運慶の研究	1971	第21冊 研究論集Ⅰ
	第2冊 修学院離宮の復原的研究	1973	第22冊 研究論集Ⅱ
1955	第3冊 文化史論叢	1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ
1956	第4冊 奈良時代僧房の研究		第24冊 高山―町並調査報告―
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	1975	第25冊 平城京左京三条二坊
1958	第6冊 中世庭園文化史		第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅶ
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
1950	第8冊 文化史論叢Ⅱ		第28冊 研究論集Ⅲ
	第9冊 川原寺発掘調査報告		第29冊 木曽奈良井―町並調査報告―
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	1976	第30冊 五条―町並調査の記録―
1961	第11冊 院家建築の研究	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀仏快慶		第32冊 研究論集Ⅳ
	第13冊 寝殿造系庭園の立地的考察		第33冊 イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
	第14冊 唐招提寺蔵「レース」と「金亀舎利塔」に関する研究		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅸ
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ		第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第18冊 小堀遠州の作事		第38冊 研究論集Ⅵ
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告Ⅹ
1969	第20冊 名物裂の成立	1981	第40冊 平城宮発掘調査報告Ⅺ

ロ、史　料

年度	名称
1954	第1冊 南無阿弥陀仏作善集（複製）
1955	第2冊 西大寺叡尊伝記集成
1963	第3冊 仁和寺史料　寺誌編一
1964	第4冊 俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊 平城宮木簡一　図版
1967	第6冊 仁和寺史料　寺誌編二
1969	第7冊 平城宮木簡一　解説（別冊）
1970	第7冊 唐招提寺史料一
1974	第8冊 平城宮木簡二　図版・解説
	第9冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
1975	第10冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊 藤原宮木簡一　図版・解説
	第13冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊 東大寺文書目録第一巻
1979	第16冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
	第17冊 平城宮木簡三　図版・解説
	第18冊 藤原宮木簡二　図版・解説
	第19冊 東大寺文書目録第二巻
1980	第20冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
	第21冊 東大寺文書目録第三巻
1981	第22冊 七大寺巡礼私記
	第23冊 東大寺文書目録第四巻

ハ、飛鳥資料館図録

年度	名称
1976	第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏　銘文篇
1977	第3冊 日本古代の墓誌
1978	第4冊 日本古代の墓誌　銘文篇
	第5冊 古代の誕生仏
1979	第6冊 飛鳥時代の古墳―高松塚とその周辺―
1980	第7冊 日本古代の鴟尾
1981	第8冊 山田寺展
1982	第9冊 高松塚拾年

ニ　基準資料

年度	名称
1973	第1冊 瓦編1　解説
1974	第2冊 瓦編2　解説
1975	第3冊 瓦編3
1976	第4冊 瓦編4
1977	第5冊 瓦編5
1978	第6冊 瓦編6
1979	第7冊 瓦編7
1980	第8冊 瓦編8

ホ、地　図　（大梯尺図、縮尺1：1,000、航空写真より図化）

区分	図化面数	図化地域
平城京地域	64	押熊、桑原、中山、外山、盾列、渋谷、赤井谷、秋篠寺、山陵、西畑、歌姫、コナベ、ウワナベ、黒髪山、野神、西大寺、平城宮㈠㈡、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺㈠㈡、宝来、菅原、尼ケ辻、北新、田村、蔵ノ町、三条、興福寺、春日野、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、大安寺㈠㈡、京終、元興寺、紀寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神殿、肘塚、大職冠、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登坂、野垣内、下三橋、上三橋、北ノ庄、今市、帯解
下ツ道地域	46	大師、若槻、美濃庄、井戸野、池田、蔵之庄、番条、中城、発志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西嘉幡、嘉幡、庵治、溝幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦ノ庄、南阪手、多、笠縫、新口、西垣内、額田部、額田部北方、窪垣内、穴闇、長楽、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場、乙木㈠㈡、佐保庄、竹之内
飛鳥藤原地域	41	耳成山、西之宮、今井㈠㈡、小房、鴨公、高殿北部、膳夫、木殿、飛騨、高殿、香久山、池尻、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、鳥屋、益田池、見瀬、和田、豊浦、飛鳥寺、八釣、越、野口、立部、橘寺、岡寺㈠㈡、真弓、桧前、上平田、祝戸、坂田、観覚寺、栗原、大根田、東常門
計	151	

その他、編集図（縮尺1：2,000）
平城宮跡、藤原宮跡、藤原京㈢㈣、五条野、飛鳥、若槻荘、池田荘、小東荘、乙木荘

へ、年　報

1958 ～ 1982 毎年 1 冊　計25冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975 ～ 1982 毎年数冊　計40冊

蔵書及び資料

蔵　書

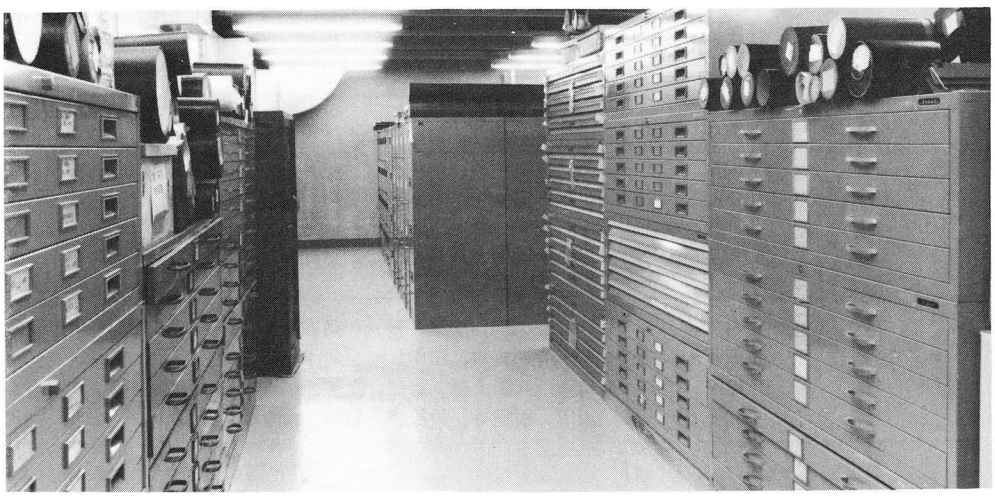
66,836 冊（昭和57年度末現在）

区　分	種　別	購　入	寄　贈	計
57 年度	和　漢　書	2,834	3,086	5,920
	洋　書	357	87	444
累　計	和　漢　書	33,385	28,952	62,337
	洋　書	3,862	637	4,499

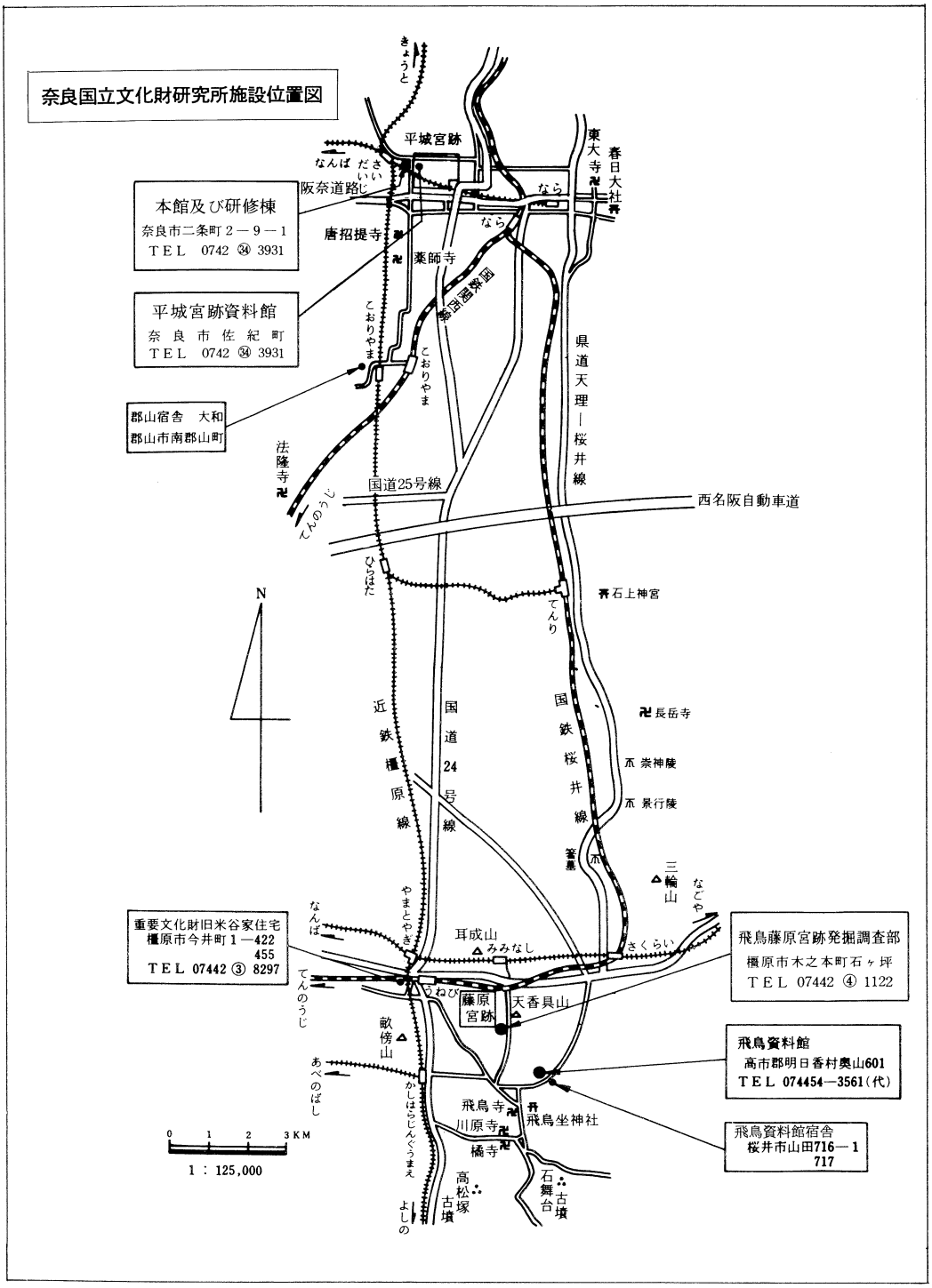
資　料

243,358点（昭和57年度末現在）

区　分	キヤビネ	スライド	ライカー	ブローニー	マイクロフイルム	そ の 他	計
57 年度	3,779	5,293	3,376	2,365	22	36	14,871
累　計	83,884	67,635	51,167	31,248	1,808	7,616	243,358



第三書庫　地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガなどを保管


奈良国立文化財研究所施設位置図
本館及び研修棟
奈良市二条町２－９－１
ＴＥＬ　0742 ㉞ 3931
平城宮跡資料館
奈良市佐紀町
ＴＥＬ　0742 ㉞ 3931
郡山宿舎　大和
郡山市南郡山町
重要文化財旧米谷家住宅
橿原市今井町１－422
455
ＴＥＬ 07442 ③ 8297
飛鳥藤原宮跡発掘調査部
橿原市木之本町石ヶ坪
ＴＥＬ 07442 ④ 1122
飛鳥資料館
高市郡明日香村奥山601
ＴＥＬ 074454－3561(代)
飛鳥資料館宿舎
桜井市山田716－1
717
平城宮跡
阪奈道路
唐招提寺
薬師寺
東大寺
春日大社
県道天理－桜井線
国道25号線
西名阪自動車道
法隆寺
石上神宮
長岳寺
崇神陵
景行陵
三輪山
近鉄橿原線
国道24号線
国鉄桜井線
耳成山
天香具山
藤原宮跡
畝傍山
飛鳥寺
川原寺
橘寺
飛鳥坐神社
高松塚古墳
石舞台古墳
N
0 1 2 3 KM
1 : 125,000

飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大官大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	霊亀 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豊浦宮に即位	718	養老 2	薬師寺・元興寺を移す
601	9	聖徳太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小墾田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮大極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に還る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平勝宝 4	東大寺大仏開眼供養
639	11	百済大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百済宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小墾田宮に遷る	759	天平宝字 3	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豊碕宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平神護 1	西大寺を造る
655	斉明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護景雲 1	西隆寺を造る。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
667	天智 6	近江大津宮に遷る			
672	天武 1	飛鳥浄御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	薬師寺を造り始める。橘寺尼房焼失			
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る			
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

（裏表紙写真）鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日　昭和58年７月１日
発　行　奈良国立文化財研究所